

果実の高品質と外観偏重

果実に対する消費者の高品質志向が、曾てなく強まっていると言われる。物が供給過剰になれば買手側が品質にきびしい注文をつけ、品質差による価格差が大幅となることは何も果実に限ったことではないが、問題は「高品質」の内容である。

果実にしろ野菜的果実にしろ美味しくなくては高品質とは言えないが、外観にこだわり過ぎるといろいろの面に好ましくない歪みが生じてくる。その最たるものは、生産コストを徒らに増加させることであるが、食品の安全性等もかわってくる問題である。

一般消費者が気につけないような病害虫等による果皮損傷を市場取引において問題にすると、栽培者は薬剤散布回数を増すことになり、その結果、薬剤費・散布労力費等の増加により生産コストは高まり、他方栽培者保健および食品の安全性の面で好ましくない方向に進むことになる。また、果皮色沢を徒らにやかましくいうと、栽培者は不必要に収量をおさえ、袋掛け・葉摘みまでして美しく仕上げようとする結果、資材費・労力費を大幅に増加し、生産性をいちじるしく低下することになる。

わが国の果実の近代的流通は贈答品からスタートした沿革もあり、従来外観を重視する傾向が強く、これが諸外国に比べ高い生産費を構成する一つの主要な要因となっていた。それを、高品質という市場要請から外観偏重にさらに傾斜を強めることは、良質・安全・廉価という必需品的性格の高い果実供給および海外産品との競争上から、改めて考え直す必要があろう。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 千野知長〕

目次 (第17巻第9号)

解毒剤について……………2

＜理化学研究所 中山治彦＞

植物生理活性物質研究の現状と諸問題……………7

＜東北大学農学部教授 山下恭平＞

1. 植物ホルモンの生育調節剤としての利用……………7
2. アブシジン酸(ABA)研究の現状……………7
3. その他の内生植物生長物質……………9
4. α -メチレン- γ -ラクトン系活性物質……………10
5. 新しい母核の発芽抑制物質……………11
6. 立体化学と生理活性……………11
7. 微生物の生産する植物生長物質……………12
8. お わ り に……………12

高等植物におけるジベレリンについての諸問題……………13

＜東京大学農学部助教授 室伏旭＞

1. 内生ジベレリンの同定および定量……………14
2. ジベレリンの生合成・代謝……………15
3. 生 理 活 性……………16
4. 植物体におけるジベレリンの変動……………17
5. 矮 性 の 問 題……………18
6. 今 後 の 問 題……………20

植調第17巻第5号の訂正について……………21